.機能概要

1.Si-V730 の役割

Si-V730は、ディジタル(TTC-2M)トランクインタフェースを装備したVoIPゲートウェイで、音声 30チャネルを収容可能な大規模拠点向けモデルです。

2.接続イメージ

Si-V730は、お客様のPBXとTTC2Mインタフェースで接続し、IPネットワーク音声通話を可能とする装置です。、以下のように接続してご利用頂きます。



3.システム構成品

Si-V730は、下記に示すような本体、ソフトウェアから構成されます。

表. -1 本体構成

名称			略称	型名	図番	備考	保守品
GeoStream Si-V730		Stream Si-V730	TTC2M-GW-CAB	SIV730AV4	TA08001-B107		
本	構	制御カード	TTC2M-GW	-	TA21016-B301		
体	成	電源装置	電源	-	CT-GLD30-0305-KAGA		
	品	FAN	FAN	-	CT-109P0405F3D03-SANY0		

表. -2 ソフトウェア

項	名称	略称	型名	備考	保守品
1	Si - V730 基本ソフトウェア V4	SIV730	NB13901004	添付品	

4.システム仕様

1)ハードウェア仕様

項目		内容	備考
MPU		MPC8260	
外部インタフェース	回線	TTC-2M	
LAN		100Base-TX/10BASE-T	Full/Half duplex 自動認識/固定設定
DSP		AC48105A-C 5ch × 6	
電源		AC100V ± 10%、 50/60Hz	
消費電力		16\\ 以下	
寸法		440mm(W) × 240mm(D) × 54mm(H)	19 インチラック搭載時はゴム 足をはずす為 44mm(H)
重量		2.7kg	
動作環境条件 温度		0~40	
湿度		湿度 20~80%	結露しないこと

2)インタフェース仕様

項目				内容	備考
回線	TTC-2M			30音声ch	
インタ	信号方	亍式		DP/PB	DP10/20PPS
フェース					
LAN/WAN	LAN1	ンタフェー	ース	10Base-T/100Base-TX	
インタフ	Ether	net×1		-	
ェース	NW機器	器として	エント゛ポ゜イント	ネットワーク端末	
	の属物	ŧ	L2制御	無し	
			IP7ŀ VX	IPv4のみ	
	サポ-	-ト	インターネット	ARP/IP/ICMP	
プロトコル		L3上位	TCP/UDP/FTP/telnet/SNMP/NTP		
	対ルータインタワーク		ワーク	IPヘッダ内ToS、およびTCP/UDP	
				ポート番号による優先制御	
VoIP	Vol P7	゚ロト⊐ル		H.323v2	
ネット	H.323属性			GW	
ワーク	H.323	GKとの連	携	可(クライアント)	
	容量 対GK 他GW数 GK連携			2GK(GK側での2重化制御必要)	
			GK連携	GKに依存	
			内部テーブル	2048宛先	

3)TTC-2M回線制御方式

項目		内容	備考
インタフェ	ース構造	30ch	
物理レイヤ	伝送方式	CMI符号方式	
伝送速度		2.048Mbps	
	信号振幅	3.0Vp-p ± 0.75V	
デューティ		50 ± 10% (論理値0の占有率)	
伝送媒体コネクタ形状		4線メタリックケーブル	
		15ピ ን ገ ネクタ	ISO標準IS4093に準拠

4)VoIP制御方式

項目			内容	備考
シグナリング	呼制御	≢FastConnect	サポート	接続のネゴシエーショ
		FastConnect	サポート	ンにより選択
				発側の場合は無条件に
				FastStartパラメータ
				付与
	H.245能	力交換	音声のみ。デフォルト:G.729A	
音声制御	圧縮方式	<u>-</u> v	ITU-T G-711 μ-law	V4よりコーデック自動
			ITU-T G.729 AnnexA	選択機能サポート
			(8KCS-ACELP)	
	無音圧縮	5	ITU-T G.729 AnnexB	
FAX制御	速度		G3 2.4K,4.8K,7.2K,9.6K,12.0K,	
			14.4K	
	適用規格		V.21, V27tar, V29, V33(T.4, T.30	
)	
	ゲートウェイ間通信方		T.38(H.323 AnnexD)	V4よりみなし音声機能
	式			サポート
DTMF	インバウンド		有り	
	アウトバウンド		H.245 UIIメッセージによる	
QoS制御	フレーム	フレームタイム	G711:20~60ms(20ms単位)	30msの設定も可能
	タイム		G729A:20~100ms(20ms単位)	
		制御方式	可変(非動的制御)	
	ジッタ	バッファ	最大300ms	
	制御	容量		
		制御方式	可変(動的制御)	
		順序制御	無し	
付加サービス	H.450付;	加サービス	H450.2(転送),H450.4(保留)	V4よりSi-V702からの
				転送(被転送者)機能サ
				ポート

5)相互接続性

コンポーネント	製品名	条件等
PBX	IP-Pathfinder	TTC-2M中継線接続のみ。富士通製中大容量PBX旧機種につ
		いても保証します。(注)
	ES200シリーズ	TTC-2M中継線接続のみ。富士通製宅内交換機旧機種につい
		ても保証します。
GK	NetEyemanager/VoIP	
	LR-Vシリーズ	
	Si-V704、702	
GW	LR-Vシリーズ	
	EW301P	
	Si-Vシリーズ	
NW時刻サーバ	Windows2000サーバ	SNTPプロトコルのみサポート。
SNMPマネージ	System Walker	
ヤ	Network Node Manager	

注)接続完了後に起動されるサービス(中継線リセットシフト)はサポートしていません。

6)ソフトウェア仕様

(1)サービス容量

項目	容量	備考
相手先GW番号	2,048宛先	
相手先IPアドレス・ポート	1,024宛先	
統計情報収集件数	5,000件	容量オーバー時古いものから消去
障害ロギング件数	2,048件	容量オーバー時古いものから消去

(2)パケット処理能力

項目	值	備考
PPS性能	送受信合計で1500PPS以上	
	(30ch同時通話に相当)	

(3)システム固定値

項目	値	備考
RRQ再送回数	2回	
ARQ再送回数	2回	
DRQ再送回数	2回	
RAI再送回数	2回	
H225呼シグナリングポート番号	1720	
RAS用UDPポート番号	1719	
SNMPエージェント用UDPポート番号	161	
SNMP TRAP送信用UDPポート番号	162	
NTP(時刻同期プロトコル)UDPポート番号	123	

(4)システム可変タイミング

項		値	備考
RRC	再送間隔	60sec	RRQ(keep alive)の送信間隔。 但しGKの指示(RCFのTTL)に従い、(TTL-10)の タイミングで送信する。 また、ゲートキーパー応答無しの場合、 RRQ(登録)を周期送信するタイミングとして も使用する。
無ì	通信監視時間	30sec	
	接続確認信号受信待ちタイミング	5200ms	設定範囲に関しては
Т	接続確認信号受信復旧待ちタイミング	950ms	コマンド操作説明書参照
T	接続確認信号受信戻しタイミング	180ms	
C	パルスメークタイミング(10P)	35ms	
2	パルスメークタイミング(20P)	15ms	
M	パルスブレークタイミング(10P)	65ms	
回	パルスブレークタイミング(20P)	30ms	
線	ガードタイミング	760ms	
	復旧タイミング	200ms	
	第一数字受信タイミング	10sec	
	桁間タイミング	4sec	
	PBコード送出タイミング	80ms	
	PBミニマムポーズタイミング	60ms	

(5)システム固定値 (タイミング関連)

項目	値	備考
コネクション接続タイマ	4sec	
RRQ送信時応答待ちタイミング	3sec	RCF/RRJ待ち
ARQ送信時応答待ちタイミング	3sec	ACF/ARJ待ち
DRQ送信時応答待ちタイミング	3sec	DCF/DRJ待ち
RAI送信時応答待ちタイミング	3sec	RAC待ち
H225 T303	4sec	
H225 T301	180sec	
H225 TUGRREL	10sec	
H245 T101	30sec	
H245 T106	30sec	
H245 T103	30sec	
H245 TH245	30sec	
LINK障害検出タイミング	2sec	
PB信号受信タイミング	50ms	

.作業手順

以下の作業手順に従い、設置工事を実施願います。



.ネットワーク / システム条件の確認

以下に既存専用線ネットワークユーザーをIP 網ネットワークに切替える際に確認すべき項目を示します。

[ネットワーク条件]

- ・各局のIPアドレス
- ・事業所番号とIP アドレスの対応付け

1 装置に1つのIP アドレスを取得してください。 (ネットワーク担当者と相談)

連携機器のIP アドレスの確認をしてください。

- ・GK、SNMP マネージャ、NW時刻サーパ (SNTP)等 の連携対象機器の確認
- ・対向するGW の確認
- [インタフェース条件]
- ・既設PBX Si-V730 の接続インタフェースの確認
- ・既設PBXからのダイヤル情報送出条件(PB/DP、ウィンクスタート/イミディエイト等)
- [既設PBX条件]
- ・既設PBXでの音声圧縮機能の有無 既設PBXでの音声圧縮は行わないようにしてください

.Si-V730の設置工事



/!、:警告 ・機器類はぐらついた台の上や傾いたところなど不安定なところに設置しないでください。 落ちたり、倒れたりして火災、感電、けが、故障の原因となります。

- ・機器類を積み重ねて設置しないでください。落ちたり、倒れたりして火災、感電、けが、 故障の原因となります。
- ・機器類を、縦置き設置しないでください。落ちたり、倒れたりして火災、感電、けが、 故障の原因となります。
- /!、:注意 ・工事保守エリアは必ず確保してください。 確保しないと火災、感電、けが、故障の原因となります。

1.Si-V730 外観図







項目	内容
RESET	リセットスイッチ
LAN	LANポート
TTC-2M	TTC-2Mポート
POWER	電源スイッチ
AC100V	AC入力

初期化スイッチ(INIT)は非常時の場合使用します。保守者に相談なく触らないでください。





2.工事・保守エリア

			800mm
	後 Si-V730 前		240mm
			800mm
200mm	440mm	200mm	



保守エリア

3.Si-V730を19インチラックに搭載する場合

下図に従って19インチラックに搭載します。 尚、19インチラックは 富士通コワーコ製 R1CA01268-B001を推奨します。 準拠規格は、EIA規格(固定ネジM5)を適用します。





尚、19 インチラック搭載時は装置背面に接 続されているゴム足をとりはずして ください。

	品名	数量	備考
1	Si-V730本体	1	
2	カナグ	2	19インチラック
3	サラコネジ	4	搭載キット
4	コネジ	4	(オプション)
5	ネジイタ	2	

4.電源及び、接地線の確認

- /!、:警告 ・機器類の電源プラグは常に通電状態のコンセントに接続してください。
 - ・延長コードの使用およびタコ足配線をしないでください。 火災、感電、けがの原因となります。
- 注意 ・すべての配置及び配線の工事が終了するまで、電源プラグのコンセントに接続しないで ください。また、電源スイッチはOFF(切)の状態にしてください。 守りませんと火災、感電、けがの原因となります。
- Si-V730用及び、工事の際に必要な電源を確認します。

Si-V730はお客様既設のPBXと同一アースとなるように接地する必要はありません。

電源アースのみ接続してください。

装置	必要なもの	仕様	数量
本体	AC100V	平行 2 ピンアース付き	1個/装置
		(接地極付き)	

.装置確認

1.TTC-2M インタフェースのコネクタ収容図

本体裏面に配置されているTTC-2Mインタフェースのコネクタ収容、ピン収容を以下に示します。

<u>コネクタ収容(DSUB15pinオスコネクタ)</u>



TTC-2M Connector ピン収容

Pin	Pin 名称	極性	内容	備考
No.				
01	G		アース	
02	RCMIT	+	受信信号	PBX Si-V730
03			-	
04	TCMIT	+	送信信号	Si-V730 PBX
05			-	
06			-	
07			-	
08			-	
09	RCMIR	-	受信信号	PBX Si-V730
10				
11	TCMIR	-	送信信号	Si-V730 PBX
12			-	
13			-	
14			-	
15			-	

01,02,04,09,11pin 以外の端子は使用しません。

富士通製PBX TTC-2Mパッケージ接続時におけるDTKパッケージ側コネクタのピン収容及び ケーブル結線方法を以下に示します。

PBX(ES200/ES3300) DTK package Connector ピン収容

Pin	Pin 名称	極性	内容	内容	極性	Pin 名称	Pin
No.							No.
A1			-	-			B1
A2			-	-			B2
A3			-	-			B3
A4			-	-			B4
A5			-	-			B5
A6	CMITR	-	送信信号	-			B6
A7	CMITT	+	送信信号	-			B7
A8	CMIRR	-	受信信号	-			B8
A9	CMIRT	+	受信信号	-			B9
A10	SER		アース	アース		SET	B10

FUJITSU PBX とのケーブル結線

TTC-2M Connector (D-sub 15pin)	PBX DTK Connector (FRONT 20pin)
RCMIT (2pin)	CMITT (A7pin)
TCMIT (4pin)	CMIRT (A9pin)
RCMIR (9pin)	CMITR (A6pin)
TCMIR (11pin)	CMIRR (A8pin)

2.正面 LED レイアウト

Si-V730の正面LED表示内容を以下に示します。

• LED



LED 表示内容

LED	POWER	CHECK	LAN	SYNC	BUSY
緑	通電中	立ち上げ中	正常 (通信中ブリンク)	TTC-2M 正常	TTC-2M 使用中
赤	-	障害	同期外れ	TTC-2M 同期外れ	-
橙	Flash 書込中	ソフト 未インストール	-	-	-
消灯	電源 OFF	正常	-	-	全 ch 未使用

.データ設定

以下の手順に従いSi-V730の設定を行います。



本手順に記載されていますコマンドの仕様に関しては別冊のコマンド操作説明書を参照ください。

1.本体電源投入

・本体の電源を投入し、本体のCHECKランプが緑点灯後、消灯することを確認します。

2.保守用 PC の接続

・特に規定致しませんが、Si-V730とLANケーブルで接続するため、LANと接続できるインタフェースを 持ち、ftp、telnet(Windows付属)のソフトを備えたPCで行ってください。またSi-V730基本ソフトウ ェアをインストールする場合は、CD-ROMドライブも必須となります。

・Si-V730の設定を行うために、保守用PCとSi-V730を接続します。機器添付のカテゴリ5クロスケーブ ルでSi-V730と直結するか、ハブを用いてストレートケーブルで接続してください。



- ・保守用PCのIPアドレスを、Si-V730のデフォルトIPアドレス(192.168.1.1)と同じネットワーク アドレスに設定します。(192.168.1.X) (2 X 254)
- ・Si-V730のLANランプが緑点灯することを確認します。
- ・保守用PCからSi-V730にpingによる通信確認を行います。
- ・Si-V730からの応答を確認します。

3.ソフトウェア版数の確認

- ・保守用PCからtelnetにより接続し、コマンドプロンプトを確認します。
 - (1) Windows 付属の telnet を立ち上げ、ゲートウェイ装置に接続します。
 - telnet を立ち上げると以下の画面が表示されます。接続(C) リモートシステム(R)の順にメニューを選択し

ます。	
1000 000 0-1200 A020	

選択後、以下のポップアップが現れるのでホスト名(H)に「192.168.1.1」と入力し接続(C)ボタンをクリックします。

接続		×
ホスト名(山):	192.168.1.1	•
ポート(<u>P</u>):	telnet	•
ターミナルの種類(工):	vt100	•
接続ⓒ)	キャンセル	

(2) 正常に接続すると以下のように表示されます。

remote[] cip>

注)この状態で10分間放置すると切断されます。

・保守用PCからinfoコマンドを実行します。

<pre>remote[] cip> info <<control-card>></control-card></pre>	" info " と入力します。
Program name	: SIV730 ソフト名称
Soft version	: E01V04L04C01 ソフトバージョン
Config version	: 003 構成管理情報版数
Config update Ver1	: 001 構成管理更新版数
Config update Ver2	: 00001 データ更新版数
MAC address	: 00:00:0e:80:01:25 MACアドレス
Speed	: 100Mbit/s データ転送速度
Duplex mode remote[] cip>	: half duplex 通信方式

・表示されたソフトウェアバージョンと添付のSi-V730出荷ファイルの版数が一致していることを 確認します。

4.CARD 登録と時刻設定

- ・保守用PCからtelnetにより接続し、コマンドプロンプトを確認します。
- ・保守用PCからsuperコマンドを投入し、スーパーユーザモードへ移行します。

remote[] cip> <u>super</u> Password unsetup.	" super " と入力します。
New password: <u>XXXXXX</u> Retype new password: <u>XXXXXX</u> New password is accepted. remote[] Super:cip>	"cemainte"と入力します。 1 もう一度"cemainte"と入力します。

1: パスワードを入力(設定)する場合、忘れないように記録しておいてください。

・保守用PCからcardコマンドを投入し、Si-V730のIPアドレス、サブネットマスク、デフォルトゲート ウェイを登録します。

(下記はIPアドレス192.168.1.100、サブネットマスク255.255.255.0、デフォルトゲートウェイ192.168.1.254に設定す

る場合の例)

remote[] Super:	cip> <u>card -a ip19</u>	02.168.1.100 sm255.255.255.0 gw192.168.1.254
Complete.	IP アト・レス、	サブネットマスク、デフォルトゲートウェイを入力します。
remote[] Super:	cip> <u>card —dsp</u>	表示コマンドで確認します。
*** configurat	ion ***	
IP adderss	192.168.1.100	今回変更するアドレス 2
subnetmask	255.255.255.0	
gateway	192.168.1.254	
host	SIV730	
ucsp(sec)	30	
coder	G729A	
timesvr	inactive	
*** Saved confi	guration ***	
IP adderss	192.168.1.1	変更前のセーブされているアドレス
subnetmask	255.255.255.0	
gateway	0.0.0.0	
host	SIV730	
ucsp(sec)	30	
coder1	G729A	
coder2	G711	
timesvr	inactive	
remote[] Super:	cip>	

2: 変更したIPアドレスは、忘れないように記録しておいてください。

・保守用PCからdateコマンドを投入し、時刻設定を行います。

remote[] Super:cip> <u>date 2001/09/20.15:24:00</u>	現在時刻を入力します。
Command OK.	
remote[] Super:cip> <u>date</u>	設定を確認します。
2001/09/20(Thu)15:24:07 display-mode:1	設定時刻が表示されます。
remote[] Super:cip>	

・保守用PCからsaveコマンドを投入し、今まで入力したデータを保存します。

remote[] Super:cip> <u>save</u> Do you want to save config ?(y/n):y	セーブコマンド Yes と入力します。
Save execute Save complete.	
remote[] Super:cip>	

saveコマンドによりデータは本装置flash Rom内のCONFIGファイル(構成定義データ)に保存され ます。本書ではデータ保存忘れを防ぐ為にもコマンド毎にセーブしていますが、すべてのデータ 設定完了後にセーブすればすべてのデータが保存されます。

注意::セーブ中に電源を切らないでください。誤って切ってしまうと装置が動作しなくなります。

5.立ち上げ確認

・保守用PCからresetコマンドを投入します。

<pre>remote[] Super:cip> reset</pre>	再起動コマンド
The SAVE command for config-data	has not been executed yet. *1
Do you want to continue?(y/n):y	(システムの再開を開始します。)

*1: コマンドでデータ変更後、saveコマンドが未実行の場合に限り、

上記ワーニングが表示されます。

・以後(reset後)Si-V730のIPアドレスは新しく更新されます。

・再起動を行うとtelnet接続が切断されるのでtelnetソフトを一旦終了します。

・本体のCHECKランプが緑点灯後、消灯することを確認します。

6.ネットワーク接続確認

・保守用PCとSi-V730を実運用のネットワークに接続します。

(Si-V730のIPアドレスは新しく更新されています)

- ・Si-V730のLANランプが緑点灯することを確認します。
- ・保守用PCからSi-V730にpingによる通信確認を行います。
- ・Si-V730からの応答を確認します。
 - 「注:Si-V730のLANインタフェース通信速度認識機能としてAutoNegoをサポートしていますが、固定 設定による運用が必要な場合は付録3(50ページ)を参照願います。」

7.運用データ登録

(1)TTC-2Mインタフェースの設定

Si-V730のTTC-2Mインタフェースの各種タイミング、回線信号方式、接続確認信号方式等の設定を行う コマンドです。PBXのTTC-2Mインタフェースにあわせて回線信号方式、接続確認信号方式、回線数を設 定します。回線数は接続するPBXにあわせて設定してください。また、Si-V730のTTC-2Mインタフェース はスレーブ固定ですので、PBX側をマスターとするようにしてください。

各種タイミングについては、基本的にはデフォルトで接続可能ですので設定を変更する必要はありません。

・保守用PCからSi-V730にtelnet接続を行います。

・保守用PCからsuperコマンドを投入し、スーパーユーザモードへ移行します。

・保守用PCからchgroupコマンドを使用して、TTC-2Mインタフェースの設定を行います。

chgroupコマンド	内容	設定範囲	初期値
aw	接続確認信号受信待ちタイミング	1~15(単位:1040ms)	5
ar	接続確認信号受信復旧タイミング	1~15(単位:95ms)	10
ab	接続確認信号受信戻しタイミング	1~15(単位:30ms)	6
mi	ミニマムポーズタイミング	1~15(単位:95ms)	8
рр	プレポーズタイミング	1~25(単位:190ms)	5
maa	10P用パルスメークタイミング	1~15(単位:5ms)	7
mab	20P用パルスメークタイミング	1~15(単位:5ms)	3
bra	10P用パルスブレークタイミング	1~15(単位:5ms)	13
brb	20P用パルスブレークタイミング	1~15(単位:5ms)	6
gr	ガードタイミング	1~15(単位:190ms)	4
re	復旧タイミング	1~15(単位:50ms)	4
fdr	第一数字受信タイミング	1~255(単位:1s)	10
dr	桁間タイミング	1~255(単位:1s)	4
dst	PBコード送出タイミング	6~10,20,30,40(単位:10ms)	8
dpt	PBミニマムホ゜ース゛タイミンク゛	4~255(単位:10ms)	6
dsl	PB送出レベル	0~31(単位:1db)	27(-4db)
sg	回線信号方式	1:20DP 2:10DP 3:PB	3
	体结体现合品大学	0:immediate方式	0
LS .	按规准能后与力式	1:wink方式	
sch	開始チャネル	1 ~ 30	1
ech	終了チャネル	1 ~ 30	30

投入例

remote[] Super:cip>chgroup -a aw5 ar10 ab6 mi8 pp5 maa7 mab3 bra13 brb6 gr4 fre10 re4 dr4 dst8 dpt6 dsl5 sg3 cs0 sch1 ech4 Complete. remote[] Super:cip>

・保守用PCからsaveコマンドを投入します。

(2)受信数字の有効桁数決定

PBXから受信するダイヤル情報の有効桁数を決定するテーブルを作成します。 これにより桁間タイムアウト(pbxinfコマンドのfdrパラメータ設定値)を待たずに 接続することが可能となり、接続時間の短縮が可能となります。

・保守用PCからSi-V730にtelnet接続を行います。

・保守用PCからsuperコマンドを投入し、スーパーユーザモードへ移行します。

・保守用PCからpbxinfコマンドを使用して、受信数字有効桁数の設定を行います。

pbxinfコマンド	内容	設定範囲	初期値
an	TTC-2Mインタフェースからの	0~9より構成される8桁以内の数字列	
	受信数字		
ed	TTC-2Mインタフェースからの	1桁~32桁	
	受信数字有効桁数		
sn	発番号表示	0~9より構成される32桁以内の数字列	

投入例

omplete.		
mote [] Super:cip>		

・保守用PCからsaveコマンドを投入します。

(3)数字付加・消去設定

TTC-2Mインタフェースから受信する番号情報の消去・付加、LAN側から受信する番号情報の消去・付加 を行う場合に設定します。

- ・保守用PCからSi-V730にtelnet接続を行います。
- ・保守用PCからsuperコマンドを投入し、スーパーユーザモードへ移行します。
- ・保守用PCからdrscコマンドを使用して、番号の消去・付加の設定を行います。

drscコマンド	内容	設定範囲	初期値
an	分析数字	0~9より構成される8桁以内の数字列	
skpn	消去桁数	0桁~15桁	
ds	再生数字	0~9より構成される5桁以内の数字列	

投入例

・保守用PCからsaveコマンドを投入します。

(4)アドレステーブル作成

Si-V730は相手先GWのアドレス解決手段としてSi-V730本体のスタティックテーブルによる方法とゲートキーパー連携による方法の2種類をもっています。ネットワークの運用条件により、下記の(4-1)項または(4-2)項を選択してください。

(注)drsc コマンドで実際にダイヤルした番号に対して数字付加・消去を行った場合には、

変換後の値を用いてデータ設定を行うようにしてください。

(4-1)スタティックテーブルによるアドレス解決運用手順

接続先ゲートウェイのIPアドレスと事業所番号の対応テーブルを作成します。V02から1つの事業所番号 に複数のゲートウェイIPアドレスを登録することができ、着信側ゲートウェイのチャネルがすべて使用 中または障害等で着信不可状態であった場合に、発信迂回することが可能となります。(複数台連携機 能)



- ・保守用PCからtelnetにより接続しコマンドプロンプトを確認します。
- ・保守用PCからsuperコマンドを投入し、スーパーユーザモードへ移行します。
- ・保守用PCからgwinfコマンドを投入します。

ゲートキーパーと連携した運用を行う場合、gwinfの設定は不要です。 但しゲートキーパーダウン等の際には方路決定はgwinfが有効となります。非常時のために設定しておくことをお薦めします。 (GK二重化がされている場合はgwinfの設定は無視されます。)

以下に『7700』をダイヤルした場合に接続する相手ゲートウェイが201.101.10.1と201.101.10.2である 場合の設定例を示します。

> remote [] Super:cip> <u>gwinf -s pn7700 no1 ip202.101.10.1 pt1720</u> Complete. remote [] Super:cip> <u>gwinf -s pn7700 no2 ip202.101.10.2 pt1720</u> Complete. remote [] Super:cip>

gwinfコマンド	内容	設定範囲	備考
pn	相手先番号	0~9より構成される 8桁以内の数字	通常、対向局の事業所番号を 設定します。
		(
no	相手先ゲートウェイ迂回番号	1~8	V02より対応
ір	相手先GWのIPアドレス	(最大1024GW)	
pt	相手先のTCPポートアドレス		1720を使用します。

・保守用PCからsaveコマンドを投入します。(設定をflash-ROMに保存します。)

(4-2)ゲートキーパー連携運用手順

ゲートキーパーとの連携を行うためのパラメータです。V02からゲートキーパーが2重化されている場合 に、予備ゲートキーパーに切替えることが可能となります。

・保守用PCからtelnetにより接続しコマンドプロンプトを確認します。

・保守用PCからsuperコマンドを投入し、スーパーユーザモードへ移行します。

・保守用PCからrasコマンドを投入します。

rasコマンド	内容	設定範囲	初期値
svact	ゲートキーパー連携	0:非活性 1:活性	0
	サービス活性条件		
alias	エイリアスアドレス	0~9で構成される8桁以内の数字	無し
gkip	ゲートキーパーIPアドレス		0.0.0.0.
altgk	予備ゲートキーパー		0.0.0.0.
(V02より対応)	IPアドレス		
ttl	RRQ再送間隔	20~3600 (通常設定不要)	60

投入例

svact(ゲートキーパー連携サービス活性条件)に「1:活性」を設定します。

alias(エイリアスアドレス)に、自GW局番号を設定します。

(注)連携するゲートキーパーにより自GW番号の設定はかわる可能性があります。

gkip(ゲートキーパーIPアドレス)にゲートキーパーのIPアドレスを設定します。

altgk(予備ゲートキーパーIPアドレス)に予備ゲートキーパーのIPアドレスを設定します。

remote[] Super:cip><u>ras -a svact1 alias790 gkip172.24.87.21 altgk72.24.87.22</u> Complete. remote[] Super:cip>

(注)Net/EyemanagerVOIPをゲートキーパーとして運用する場合は、aliasを初期値のまま運用 するか、他装置と重複しない値に設定する必要があります。他装置と重複して設定した場 合、ゲートキーパーへの登録が不可となります。

また、一度設定したaliasは削除が出来ないため、設定には充分注意願います。設定値を 削除するには、config情報の初期化が必要となります。

- ・保守用PCからsaveコマンドを投入します。(設定をflash-ROMに保存します。)
- ・保守用PCからresetコマンドを投入します。

(5) 着信グループの設定

Si-V730ではスタティックテーブルでの複数台連携のほかに、着信グループでの複数台連携が可能となっています。IP Trunkのようにアドレステーブルでの発信迂回機能が使用できないゲートウェイがネットワークに存在する場合には着信グループで複数台連携を行います。



着信グループ機能を使用する場合には以下の制限事項があります。

【運用条件】

- ・ネットワーク全体がSi-V730、IP Trunk、EW30IPで構成されていること。
 (再発信要求に対して再発信可能なゲートウェイで構築されていること。)
- ・代表のゲートウェイが障害等により応答できなくなった場合には、一般ゲートウェイが着信可能でも 接続が不可能となる。
- ・ゲートキーパーを用いたネットワーク構築時には使用できない。

(5-1)代表ゲートウェイの設定

代表ゲートウェイの設定は以下のとおりです。

- ・保守用PCからtelnetにより接続しコマンドプロンプトを確認します。
- ・保守用PCからsuperコマンドを投入し、スーパーユーザモードへ移行します。
- ・保守用PCからicgコマンドを投入し、種別を"代表"に設定してサービスを活性にします。

icgコマンド	内容	設定範囲	初期値
svact	着信グループ機能活性条件	0 :非活性 1 :活性	0
attr	一般/代表種別	0 : 一般 1 : 代表	0
icgip	代表ゲートウェイIPアドレス		0.0.0.0.
icgpt	着信グループポート番号	1025~65535 (通常設定不要)	17000

remote[] Super:cip><u>icg</u> -a attr1 svact1 Complete. remote[] Super:cip>

(5-2)一般ゲートウェイの設定

一般ゲートウェイの設定は以下のとおりです。

- ・保守用PCからtelnetにより接続しコマンドプロンプトを確認します。
- ・保守用PCからsuperコマンドを投入し、スーパーユーザモードへ移行します。
- ・保守用PCからicgコマンドを投入し、代表ゲートウェイのIPアドレスを設定して

サービスを活性にします。

icgコマンド	内容	設定範囲	初期値
svact	着信グループ機能活性条件	0 :非活性 1 :活性	0
attr	一般/代表種別	0:一般 1:代表	0
icgip	代表ゲートウェイIPアドレス		0.0.0.0.
icgpt	着信グループポート番号	1025~65535 (通常設定不要)	17000

代表ゲートウェイのIPアドレスが201.101.10.1の場合

remote[] Super:cip>icg	-a icgip201.101.10.1 svact1	
Complete.		
remote[] Super:cip>		

8. 付加機能設定

(1)SNMPエージェント機能運用手順

- ・保守用PCからtelnetにより接続しコマンドプロンプトを確認します。
- ・保守用PCからsuperコマンドを投入し、スーパーユーザモードへ移行します。
- ・保守用PCからsnmpコマンドを投入します。

svact(SNMPエージェント機能活性条件)に「1:活性」を設定します。 contactに機器管理者名、locationに機器設置場所を入力します。 mgnoにSNMPマネージャ管理番号を指定し、managerにマネージャのIP7トレスを設定します。 trap(トラップ送信条件)を使用時、「1:送信する」を設定します。

remote[] Super:cip><u>snmp -a svact1 contactYAMADA044-777-1111 locationHONSHA13F</u> Complete. remote[] Super:cip><u>snmp s mgno1 manager192.168.248.160 trap1</u> Complete. remote[] Super:cip>

snmpコマンド	内容	設定範囲	初期値
svact	SNMPエージェント機能活性条件	0 :非活性 1 :活性	0
contact	機器管理者名、連絡先	英数記号40文字以内(省略可)	"administrator"
name	機器名称	英数記号32文字以内(省略可)	
location	設置管理場所	英数記号72文字以内(省略可)	"Planet Earth"
public	パブリック設計	0 : OFF 1 : ON	0
mgno	SNMPマネージャ番号	1 ~ 4	
community	マネージャと通信する為の	英数記号32文字以内	
	コミュニティ名称		
manager	SNMPマネージャのIPアドレス		0.0.0.0
trap	トラップ送信条件	0:送信しない 1:送信する	0

・保守用PCからsaveコマンドを投入します。(設定をflash-ROMに保存します。)

・保守用PCからresetコマンドを投入します。

・SNMPマネージャから各MIBオブジェクトが参照できることを確認します。

(2)時刻同期機能運用手順

ネットワーク内にSNTPサーバーがあり、ネットワーク内の時刻同期を行う場合に設定します。時刻同期 機能を使用した場合、dateコマンドで設定した時刻は無効となります。

- ・保守用PCからtelnetにより接続しコマンドプロンプトを確認します。
- ・保守用PCからsuperコマンドを投入し、スーパーユーザモードへ移行します。
- ・保守用PCからcardコマンド,dateコマンドを投入します。

cardコマンドのtimesvr(SNTPクライアント機能活性条件)に「1:活性」を設定します。

rdateコマンドのipにタイムサーバーのIPアドレスを入力します。

タイムサーバーとの時刻同期を行う周期時間を1日単位で設定する場合にはdayに、

時間単位で設定する場合にはhourにデータを設定します。

card コマンド	内容	設定範囲	初期値
timesvr	SNTPクライアント機能活性条件	0 : 非活性 1 : 活性	0

rdateコマンド	内容	設定範囲	初期値
ір	タイムサーバーのIPアドレス		0.0.0.0
day	周期単位	1~7(単位:1日)	
hour	周期単位	1~23(単位:時間)	

remote[] Super:cip><u>card - a timesvr1</u> Complete. remote[] Super:cip><u>rdate a ip192.168.1.250 day3</u> Complete. remote[] Super:cip>

・保守用PCからsaveコマンドを投入します。(設定をflash-ROMに保存します。)

・保守用PCからresetコマンドを投入します。

9.チューニング

(1) 音声符号化方式变更手順

- ・保守用PCからtelnetにより接続しコマンドプロンプトを確認します。
- ・保守用PCからsuperコマンドを投入し、スーパーユーザモードへ移行します。
- ・保守用PCからcardコマンドを投入します。

Coder1(第1優先CODEC種別)に「1:G729A」または「2:G711」を設定します。(デフォルトはG729A) Coder2(第2優先CODEC種別)に「0:第2優先なし」または「1:G729A」,「2:G711」を設定します。(デフォ ルトは第2優先なし)

> remote[] Super:cip><u>card -a coder12 coder20</u> Complete. remote[] Super:cip>

- ・保守用PCからsaveコマンドを投入します。(設定をflash-ROMに保存します。)
- ・保守用PCからresetコマンドを投入します。

(2)PB信号透過方法変更手順

- ・保守用PCからtelnetにより接続しコマンドプロンプトを確認します。
- ・保守用PCからsuperコマンドを投入し、スーパーユーザモードへ移行します。
- ・保守用PCからvoifコマンドを投入します。

dtmf(PB処理種別)に「0:音声として透過」または「1:メッセージに変換して透過」を設定します。

(デフォルトは1.メッセージに変換して透過)

dtmfを「1:メッセージに変換して透過」とする場合、網内の全てのH.323ゲートウェイがDTMFの アウトパンド送受信の能力を有していることが必要です。

remote[] Super:cip><u>voif -a c dtmf1</u> Complete. remote[] Super:cip>

- ・保守用PCからsaveコマンドを投入します。(設定をflash-ROMに保存します。)
- ・PB信号が透過することを確認します。 設定後の次の呼から有効となります。(再立ち上げ不要)
- ・保守用PCからexitコマンドを投入します。(一般ユーザモードに移行する。)
- (3) 無通信監視条件変更手順
- ・保守用PCからtelnetにより接続しコマンドプロンプトを確認します。
- ・保守用PCからsuperコマンドを投入し、スーパーユーザモードへ移行します。
- ・保守用PCからcardコマンドを投入します。

ucsp(無通信監視時間)を変更します。(デフォルト30秒)

無通信監視機能を使用しない場合には0を設定します。

無通信監視を使用する場合、無音圧縮機能は非活性でなくてはなりません。(ネットワーク全体) 無通信監視時間は30秒以上を推奨します。極端に短い時間を設定すると転送操作等での一時的 な無通信状態でも呼解放となる恐れがあります。 remote[] Super:cip><u>card -a ucsp60</u> Complete. remote[] Super:cip>

- ・保守用PCからsaveコマンドを投入します。(設定をflash-ROMに保存します。)
- ・保守用PCからresetコマンドを投入します。

(4) 音声チューニング設定手順

- ・保守用PCからSi-V730にtelnet接続を行います。
- ・保守用PCからsuperコマンドを投入し、スーパーユーザモードへ移行します。
- ・保守用PCからvoifコマンドを使用して、音声チューニングを行います。

Si-V730の音声チューニングは基本的にデフォルトのままで使用できるようになっています。 変更の必要が生じた時には必ず保守者へ確認ください。

以下にチューニング内容を示します。

・voifのQOS設定パラメータ(引数-q)

voifコマンド	内容	設定範囲	初期値
dcls	H323シグナリング優先度(ToS値)	0~7	4
bcls	RTPパケット優先度(ToS値)	0~7	5
fcls	T.38パケット優先度(ToS値)	0~7	4
max	最大遅延時間(揺らぎ吸収バッファ)	1~15(単位:20ms)	7
min	最小遅延時間(揺らぎ吸収バッファ)	0~14(単位:20ms)	1
opt	調整係数(揺らぎ吸収バッファ自動調	0~12	7
	整)		
intvl	パケット送信間隔(ペイロード長)	G.729時:1~5(単位:20ms)	2
		G.711時:1~3(単位:20ms)	
		両設定とも1.5(30ms)の指定	
		も可能	
redun	T.38パケット冗長度	0~2	0

(注)パケット送信間隔はチャネル数の設定により、制限があります。制限事項は以下のとおりです。 20ms運用時:G.711/G.729共に最大15チャネル

30ms運用時:G.711のみ選択時は最大20チャネル

G.729のみ選択時は最大25チャネル

G.711/G.729混在運用時は最大20チャネル

40ms運用時:G.711/G.729共に最大30チャネル

・voifのCODEC設定パラメータ(引数-c)

voifコマンド	内容	設定範囲	初期値
vvol	音声ボリューム設定(IP PBX方向)	0~63	32(0db)
fxe	FAXリレー活性条件	0:非活性、1:活性	1
frate	FAX最大スピード設定	0~5	5
fvol	FAXボリューム設定	0~15	9
ivol	入力ボリューム設定(PBX IP方向)	0~63	32(0db)

(注) ivolの設定でレベルを極端に大きく(小さく)した場合に、ダイヤル情報が正しく認識 できなくなる場合があります。 投入例

remote[] Super:cip>voif <u>-a -q dcls5 bcls5 max7 min1 opt7 intvl2 redun1</u> Complete. remote[] Super:cip> remote[] Super:cip>voif <u>-a -c vvo30 frate3 fvol7 ivol31</u> Complete.

・保守用PCからsaveコマンドを投入します。

(5)サービス選択データの設定

Si-V730が送出するメッセージを変更したり、送出しないようにするコマンドです。

本コマンドは通常運用時には使用しません。SEからの指示があった場合のみ変更してください。

selectבעאי	内容	設定範囲	初期値
raisend	RAI送出条件	0:RAIを送出する。	0
		1:RAIを送出しない	
fcplog	ファーストコネクトAlert/Prog送出条件	0:Progを送出する。	0
		1:Alertを送出する。	
fcrbt	ファーストコネクトAlert受信時RBT接続条件	0:対局RBTを接続する。	0
		1:内部RBTを接続する。	
cedvalid	CED検出無効時間	0:90ms未満を無効とする。	0
		1000:730 ms未満を無効とす	
		る。	

・保守用PCからtelnetにより接続しコマンドプロンプトを確認します。

- ・保守用PCからsuperコマンドを投入し、スーパーユーザモードへ移行します。
- ・保守用PCからselectコマンドを投入します。

投入例

remote[] Super:cip><u>select -a fcprog 0x1</u> Complete. remote[] Super:cip>

(注)selectコマンド使用時の注意事項を以下に示します。

・selectコマンドは他のコマンドと異なり、設定パラメータと設定値の間にスペースを入れてください。

- ・設定値は0xをつけた16進数で設定してください。
- ・設定した内容は設定後、即時有効となります。
- ・saveしないでリセットした場合には変更前の値に戻ります。

[注意事項]

Si-V730の設定パラメータはほとんどのものがリセット後に有効となります。 以下に示すリセットを行い、設定完了するようにしてください。

- Si-V730のリセット操作には以下に示す3種類の方法があります。
- (1) リセットコマンドによる方法
- 保守用PCからtelnet経由でリセットコマンドを投入します。 (2)Si-V730本体の電源断、再投入による方法
- (3)Si-V730本体の背面パネルにあるRESET釦押下による方法
- Si-V730のリセット操作時の注意事項(重要)
- (1) saveコマンド実行中でないことを確認してください。
- (2)ftpによるflash-ROMアクセス中でないことを確認してください

運用手順でNGを繰り返す場合は、Si-V730を交換してください。

運用操作に必要な物品

(1)PC

- (2)PCソフト(ftp、telnet)
- (3)10BASE-Tクロスケーブル(機器添付)

[制約事項]

運用上の制約

(1) IPネットワークのアドレス体系の制約

対象とするIPネットワークで端末を識別するためのIPアドレスがユニークに(一意的に)付与され ていることが必要です。

(2)閉塞

閉塞不可。(但し、障害発生時はTTC-2M回線の閉塞を行います。)

(3)試験機能

LAN側:疎通試験はOS提供のpingのみとします。

TTC-2M回線側:回線側の折り返し試験機能のみとします。

(4)NAT経由通信不可

シグナリングメッセージにポート番号を添付するため、NATでポート番号が変換されると通信で きません。

(5)データ通信

接続できません。

(6)統計情報/ロギング情報収集

統計情報/ロギング情報収集前にRAMディスククリアが必要です。

(ただしELOGファイルは削除しないでください)

(7)flash-ROMの使用方法

プログラム、局データの保存のみに限定します。

(8)使用可能ftpコマンドの制限

使用可能ftpコマンドに制限があるため、DOSプロンプトからのコマンド設定を推奨します。

(9)CODEC種別

複数CODECの混在使用はできません。cardコマンドで1種類を選択します。

(10)無通信監視

無通信監視を使用する場合、無音圧縮機能は非活性でなくてはなりません。

(ネットワーク全体で統一することが必須となります)

(11)チャネル数

接続するPBXのチャネル数にあわせてSi-V730のチャネル数を設定してください。

接続するPBXとチャネル数があっていないと接続不可になる場合があります。

(12)マスター/スレーブ

Si-V730のTTC-2Mインタフェースはスレーブとなっています。

接続するPBXのTTC-2Mインタフェースをマスターとして動作させるようにしてください。

.Si-V730ソフトウェア入替手順(バージョンアップ手順)

ソフトウェアの機能アップグレードもしくは問題改修時のソフトウェア改版などが発生した場合、 以下の手順に従いSi-V730のソフトウェア入替を行います。



1.Si-V730 ソフトウェアの入替

Si-V730はプログラム領域と設定データ格納領域が完全に分離しており、ソフトウェアの入替を 行っても設定データは保持されます。

ソフトウェアの入替は以下の手順に従って作業します。

- ・保守用PCをネットワークに接続します。
- ・保守用PCに入れ替えるべき新しいSi-V730出荷ファイルを設定します。
- ・保守用PCからftpにより接続を行います。(ログイン名:ce、パスワード:cemainte)
- ・ディレクトリをflashディスクに切替えます。
 - ftp> cd "/flash/"
- ・ローカルディレクトリを変更します。

以下は保守用PCのドライブ e:¥にSi-V730出荷ファイルがある場合の例を示します。

ftp> lcd e:¥

・バイナリモードに変更します。

ftp> bin

・保守用PCからSi-V730にSi-V730出荷ファイルを転送します。

ftp> put SYSTEM

・ftpを終了します。

2. 電源断、再投入

・本体の電源を切断した後、再び電源を投入し、本体のCHECKランプが緑点灯後、消灯することを 確認します。

3.ソフトウェア版数の確認

- ・保守用PCからtelnetにより接続し、コマンドプロンプトを確認します。
- ・保守用PCからinfoコマンドを実行します。
- ・表示されたソフトウェア版数と新しいSi-V730出荷ファイルの版数が一致していることを確認 します。

4. 接続確認

・任意のH323-GWに対して通話の発信/着信による接続確認試験を行います。

.その他

- 1.CONFIG ファイルのバックアップ手順
- ・保守用PCをネットワークに接続します。
- ・保守用PCからftpにより接続を行います。(ログイン名:ce、パスワード:cemainte)
- ・ディレクトリをflashディスクに切替えます。

・ローカルディレクトリを変更します。

以下は保守用PCのドライブ c:¥bkup にCONFIGファイルをバックアップする場合の例を示します。

ftp> lcd c:¥bkup

・バイナリモードに変更します。

ftp> bin

・Si-V730から保守用PCにCONFIGを転送します。

ftp> get CONFIG

・ftpを終了します。

2.バックアップ CONFIG ファイルのリカバリー手順

- ・保守用PCをネットワークに接続します。
- ・保守用PCからftpにより接続を行います。(ログイン名:ce、パスワード:cemainte)
- ・ディレクトリをflashディスクに切替えます。

ftp> cd "/flash/"'

・ローカルディレクトリを変更します。

以下は保守用PCのドライブ c:¥bkup にCONFIGファイルをバックアップされている場合の例を示します。

- ftp> lcd c:¥bkup
- ・バイナリモードに変更します。

ftp> bin

・保守用PCからSi-V730にバックアップCONFIGを転送します。

ftp> put CONFIG

- ・ftpを終了します。
- ・保守用PCからtelnetにより接続を行います。
- ・コマンドプロンプトを確認します。
- ・保守用PCからresetコマンドを投入します。
- ・CHECKランプが緑点灯後、消灯することを確認します。
- ・保守用PCからtelnetにより接続を行います。
- ・コマンドプロンプトを確認します。
- ・保守用PCからsaveコマンドを投入します。
- ・保守用PCからresetコマンドを投入します。
- ・CHECKランプが緑点灯後、消灯することを確認します。
- ・IPアドレスが変化する場合、LANケーブルを接続し直してください。
- ・保守用PCからSi-V730にpingによる通信確認を行います。

ftp> cd "/flash/"

3.catalog コマンド

Si-V730では予めコマンドイメージのデータをオフラインでカタログファイルとして作成しておき、 装置に接続してカタログ実行コマンドでそのファイルの内容を実行することができます。以下に作成手順を記述します。

(1) カタログの作成

カタログの作成を行います。カタログ作成は以下の注意点を守って作成してください。

・DOS テキスト形式で作成してください。

・カタログの1行目には "** catalog command list ** "というコメントを必ず入れてください。

・コマンドリストの各行は改行コードを含めて 256 文字以内としてください。

・行末に" / "がある場合は次行をパラメータの続きとみなし、次行にシーケンス番号は不要となります。

・カタログファイルの最後のシーケンス番号(save コマンドがある場合は最後から 2 番目)に changever コマンドを必ず入れてください。

・save コマンドを実行する場合には必ず "-na" 打 ションを付加して記述してください。

・作成したカタログファイルは拡張子を".lst"としてください。またファイルの名前は英数字と"_"からなる

8文字以内文字列としてください。

(例) command.lst

カタログの作成例を以下に示します。

*** catalog command list (Si-V730) *** 1 行目には"** catalog command list **"というコメントを必ず入れること。 00001 card -a gw192.168.1.20 00011 uptime 00012 voif -a -q intvl3 **** CONFIG FILE SAVE *** 00065 changever v127 最後のシーケンス番号(save コマンドがある場合は最後から 2 番目)に changever コマンドを必ず入れること。 00066 save na save コマンドを実行する場合には必ず"-na"オブションを付加して記述すること。

カタログ実行対象コマンドは以下のコマンドです。

コマンド名	可 / 不可	コマンド名	可 / 不可
?	×	mflag	×
card		modulestat	
catalog	×	more	×
cemainte	×	passwd	×
changever		pbxinf	
chgroup		ras	
date	×	rdate	
delete	×	reset	×
dir	×	save	
drsc		select	
elog	×	slog	×
exit	×	snmp	
gwinf		super	×
h323		uptime	
icg		voif	
info			

注1. は実行可能コマンド。×は実行不可能コマンド。

(2) カタログファイルのインストール

カタログファイルのインストールは以下の手順に従って作業します。

- ・保守用PCをネットワークに接続します。
- ・保守用PCからftpにより接続を行います。(Dが ひ名:ce、パスワード:cemainte)
- ・ディレクトリをramdに切替えます。

ftp> cd "/ramd/"

・ローカルディレクトリを変更します。

以下は保守用PCのドライブ c:¥tempに作成したかかうファイルがある場合の例です。

ftp> lcd c :¥temp

・バイナリモードに変更します。

ftp> bin

・保守用PCからSi-V730にカタログファイルを転送します。

以下はcommand.lstというカタログファイルを転送する例です。。

- ftp> put command.lst
- ・ftpを終了します。

(3) カタログファイルの実行

インストールしたカタログファイルを実行します。

- ・保守用PCからtelnetにより接続しコマンドプロンプトを確認します。
- ・保守用PCからsuperコマンドを投入し、スーパーユーザモードへ移行します。
- ・保守用PCからcatalogfコマンドを投入します。

catalogコマン	内容
ド	
-stp	コマンド実行エラー発生時、何番目のコマンドかを表示し、以降のコマンドの実行を中止する。
-con	コマンド実行エラー発生にかかわりなく、リストの最後までコマンドを実行する。

実行例 カタログファイルが command. Ist の場合

remote[] Super:cip> catalog command.lst -stp Complete. remote[] Super:cip>

4.flash-ROM の初期設定手順

Si-V730の導入作業において通常flash-ROMを初期化する必要はありませんが、以下の場合には必要となります。

(1) IPアドレスを忘れてしまった場合

(2) 設定データをsaveしている時に誤って電源を切断し、flash-ROMの内容が破壊された場合

以下の手順に従い、初期設定を行ってください。

- ・保守用PCのIPアドレスをSi-V730のデフォルトIPアドレス(192.168.1.1) と同じネットワークアドレスに設定します。 192.168.1.X (2 X 254)
- ・Si-V730と保守用PCを10BASE-Tのクロスケーブルで直結します。
- ・Si-V730の電源を切断し、背面パネルの初期化スイッチを押下しながら電源を入れ直します。尚、 初期化スイッチは前面パネルのPOWERランプが緑点灯から橙色点灯(flash-ROM初期化中)に変わる まで継続して押下してください。
- ・前面パネルのPOWERランプが緑点灯し、CHECKランプが橙色点灯となったらflash-ROMの初期化は完 了です。

NG時はSi-V730を交換してください。

- ・保守用PCからSi-V730にpingによる通信確認を行います。尚、IPはデフォルトIPアドレス (192.168.1.1)に戻っていますので気をつけてください。
- ・Si-V730からの応答を確認します。 NG時はSi-V730を交換してください。
- ・保守用PCに添付のSi-V730出荷ファイルを設定します。
- ・保守用PCからftpにより接続を行います。(ログイン名:ce、パスワード:cemainte) NG時はSi-V730を交換してください。
- ・ディレクトリをflashディスクに切替えます。
 - ftp> cd "/flash/"
- ・ローカルディレクトリを変更します。
 - 以下は保守用PCのドライブ e:¥にSi-V730出荷ファイルがある場合の例を示します。

ftp> lcd e:¥

・バイナリモードに変更します。

ftp> bin

- ・保守用PCからSi-V730にプログラムファイルを転送します。
 - ftp> put SYSTEM
 - ftp中はPOWERランプ、CHECKランプ共に橙色点灯しています。
- ・ftpを終了します。

POWERランプが緑点灯に変わります。

- ・Si-V730の電源切断、再投入を行います。
 - Si-V730がリセットされます。

CHECKランプが消灯すればIPアドレスやその他のデータが初期値の状態で立ち上げ完了です。 必要に応じてバックアップCONFIGファィルのリカバリー手順に従って作業してください。